

長引く鼻水・鼻づまり・・・

ちくのう症 (慢性副鼻腔炎)

鼻の症状でお悩みの方は耳鼻咽喉科の受診をおすすめします

●ちくのう症の症状とは？

昔のこどもは、テレビアニメの『いなかっぺ大将』の様に鼻水をたらすことが多かったですが、それがちくのう症（小児副鼻腔炎）です。

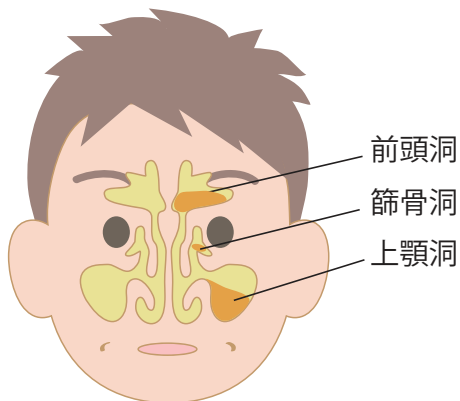
子供のちくのう症が大人になってもずっと治らないことはそれ程多くありませんが、大人になってもずっと鼻水が出るとか、圧迫感があるとか、鼻に不快感、重いような感じがある場合はちくのう症かもしれません。



ちくのう症があってもそれほど気にならずに一生過ごす人もいますが、治療をすることによってこんなにも変わるんだとうれしい感想をいただくこともしばしばあります。

そのため、上記のような症状がある方は病院への受診をおすすめします。

副鼻腔炎が起こる場所



上記の部分に膿がたまり炎症を引き起こします

●ちくのう症の診断と治療

診断は鼻の中の様子をみると大体わかります。詳しくは、ファイバーでみますが、さらに奥の状態はCTで確認します。

治療は原因によって異なります。アレルギーが原因なもの、副鼻腔の通り道が狭い方、好酸球性副鼻腔炎等、様々ですが当院ではそれらに対して、個々に判断してより適切な治療をします。

治療は大まかにまず、薬を内服したり、温かい塩水で鼻うがいをしていたりします。

鼻うがいは鼻水や鼻づまりを根こそぎ洗い流すことができます。鼻をかむよりスッキリするので、鼻の不調でお悩みの方へおすすめのうがい方法です。

それでもあまり良くならない場合は当院では手術をオススメします

裏面へ続きます→

当院では内視鏡手術も行っています

ちくのう症（慢性副鼻腔炎）の手術は20年前くらいまでは歯茎を切開する方法が主流でした。局所麻酔で歯茎を切ってそこからトンカチなどを使って骨を切ったりしていたものですから、おそろしいものと思われる方も多いと思います。

手術後も殴られたみたいに顔も腫れ上がり、何より意識がある状態でトンカチでたたかれるので術後の感想も、とんでもなく酷いことをされたことしか覚えていないくらいです。

当院ではそのような方法では無く、鼻内内視鏡手術を行っております。

鼻の穴から内視鏡というカメラを挿入して鼻の中のポリープの発生部位をキレイにして再発しない広い空洞にする手術です。術後は顔が腫れませんし、全身麻酔で行うため以前の手術のようなトラウマはありません。念入りに手術後の鼻出血を観察するため約1週間の入院治療を行っております。

それほど痛く無く、侵襲（ダメージ）の少ない手術です。

耳鼻咽喉科外来のご案内

profile



耳鼻咽喉科 科長

肥田 修 ひだ おさむ

彩の国東大宮メディカルセンターでは2019年4月からの勤務ですが、ここ20年で400例以上の鼻内内視鏡手術の経験を有しております。

鼻の不快感や圧迫感などでお悩みの方は一度耳鼻咽喉科をご受診いただきご相談ください。

■ 外来担当医表

時間／曜日	月	火	水	木	金	土
午前 診察 9:00～	肥田	—	肥田	—	肥田	肥田
午後	検査・処置 【予約制】	—	検査・処置 【予約制】	—	検査・処置 【予約制】	

☎ お問い合わせ先 048-665-6111(代表)

※その他の対応可能な疾患について、右側のQRコードにて耳鼻咽喉科の紹介ページをご確認ください。



耳鼻咽喉科